

付属資料－９ 県民意向調査の結果

1. 調査の概要

1) 県民意向調査の目的

- ・ 検討委員会において提言された「全体計画の中間取りまとめ」（委員会案）について、県民・市民・地権者に広く情報提供し、意見や提案を求めることにより、「全体計画の中間取りまとめ」づくりに反映させる。

2) 県民意向調査の実施概要

① 県民レポート及び意向調査票の作成・配布

- ・ 検討委員会より提言された「全体計画の中間取りまとめ」（委員会案）について要点をまとめた「県民レポート」を作成し、あわせて「県民意向調査」を配布した。（資料－７ 参照）

② 県民意向調査の実施期間

- ・ 県民意向調査は、平成 25 年 3 月 1 日（金）～3 月 25 日（月）に実施した。

③ 県民レポート及び意向調査票の配布方法

- ・ 県民レポート及び意向調査票は、表に示す方法等で配布した。

表－県民レポート及び意向調査票の配布状況

配布分類	配布対象等	部数	配布場所または方法
宜野湾市関連	市民・地権者	1750	地主会等を通して配布 自治会、市民団体を通して配布 市役所積み置き
沖縄県関連	関連市町村	730	那覇市、沖縄市、北谷町、北中城村、うるま市、浦添市、糸満市、豊見城市、嘉手納町、読谷村、中城村、西原町、八重瀬町、南城市、与那原町、南風原町にて積み置き
	県関連施設等	770	県庁、中央保健所、中部福祉保健所、南部土木事務所、中部土木事務所、県立図書館、県住宅供給公社、県土地開発公社、県総合福祉センター、沖縄総合事務局にて積み置き
	団体等	600	(社)沖縄県建築士会、沖縄県技術士会、(財)沖縄コンベンションビューロー、沖縄県商工会連合会、沖縄県商工会議所連合会、沖縄県軍用地等地主会連合会、おきなわ女性財団
県民フォーラム		86	フォーラム来場者に配布
合計		3,936	

④ 意向調査票の回収方法

- ・意向調査票の回収は以下の方法により実施した。

表－意向調査票の回収方法

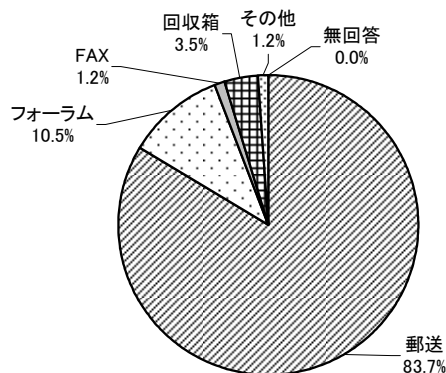
回収方法	内 容
郵 送 回 答	意向調査票の回答用紙により、事務局宛（宜野湾市）にて郵送
フ ァ ッ ク ス 回 答	意向調査票による事務局（沖縄県企画調整課、宜野湾市基地跡地対策課）あてファックスにて送信
回 答 箱 投 函	県庁、宜野湾市役所にて、積み置きと共に設置した回収箱への投函
県 民 フ ォ ー ラ ム	県民フォーラム時に会場にて直接回収

2. 調査票の集計

① 回収の状況

- ・ 県民意向調査の総回答数は 86 件あり、回答手段別にみた回答状況では、郵送が最も多く全体の 84%を占めており、次いで県民フォーラム、回答箱の順となっている。

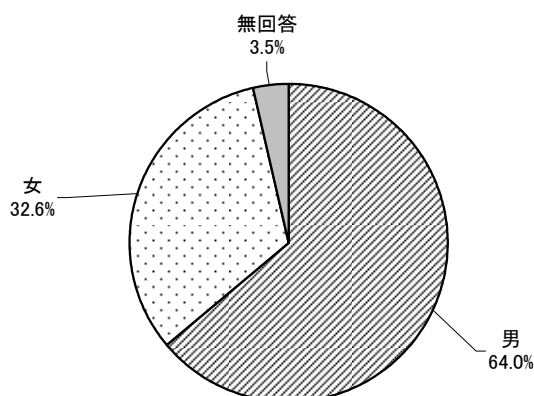
選択肢	件数	比率
1. 郵送	72	83.7%
2. フォーラム	9	10.5%
3. FAX	1	1.2%
4. 回収箱	3	3.5%
5. その他	1	1.2%
無回答	0	0.0%
計	86	100.0%



② 回答者の性別

- ・ 性別の回答状況は、男性が 64%、女性が 33%となっており、総回答数に占める男性の比率が高くなっている。

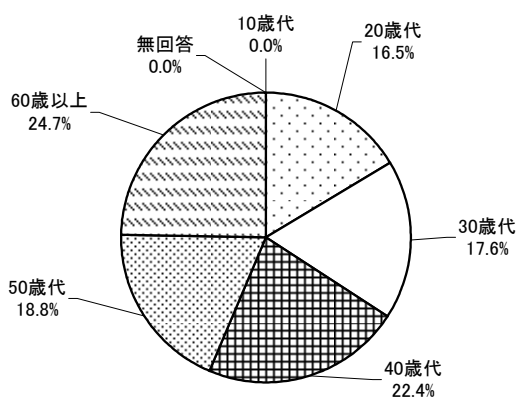
選択肢	件数	比率
1. 男	55	64.0%
2. 女	28	32.6%
無回答	3	3.5%
計	86	100.0%



③ 回答者の年齢構成

- ・ 年齢別の回答状況は、60 歳以上が 25%と最も多く、次いで 40 歳代、50 歳代の順となっているが、あまり大きな差はなく各年代均等な回答が得られている。ただし未来の主役となる 10 歳代の回答が得られなかった。

選択肢	件数	比率
1. 10歳代	0	0.0%
2. 20歳代	14	16.5%
3. 30歳代	15	17.6%
4. 40歳代	19	22.4%
5. 50歳代	16	18.8%
6. 60歳以上	21	24.7%
無回答	0	0.0%
計	85	100.0%

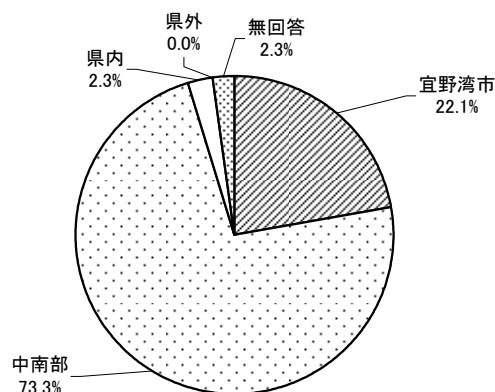


④ 回答者の居住地

- ・ 居住地別の回答状況は、宜野湾市を除く中南部都市圏の市町村からの回答が最も多く全体の73%を占めている。次いで、宜野湾市内からの回答が22%あり、両方併せて95%となり、ほとんどの回答が中南部都市圏からのものとなる。
- ・ 一方、その他の県内地域や県外からの回答は皆無に等しく、その地域の意見として取り扱うには留意が必要である。
- ・ 居住地別の回答特性は、調査票の配布が市民や地権者などの宜野湾市関連に高い比重で配布されたことから、宜野湾市のウエイトが大きくなっている。

選択肢	件数	比率
1. 宜野湾市	19	22.1%
2. 中南部	63	73.3%
3. 県内	2	2.3%
4. 県外	0	0.0%
無回答	2	2.3%
計	86	100.0%

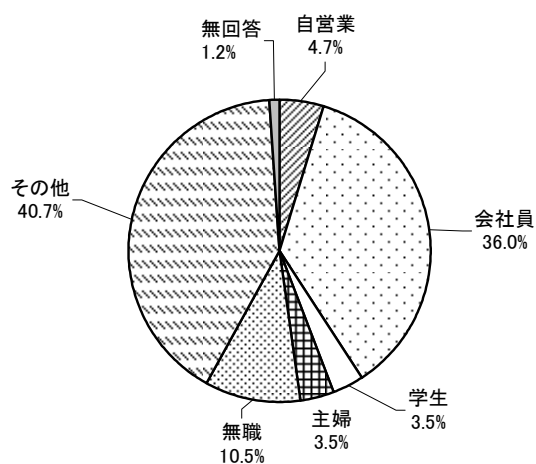
中南部(宜野湾市以外の中南部都市圏市町村)



⑤ 回答者の職業

- ・ 職業別の回答状況は、会社員が最も多く全体の36%を占めており、次いで無職、自営業の順となっている。(その他は除く)

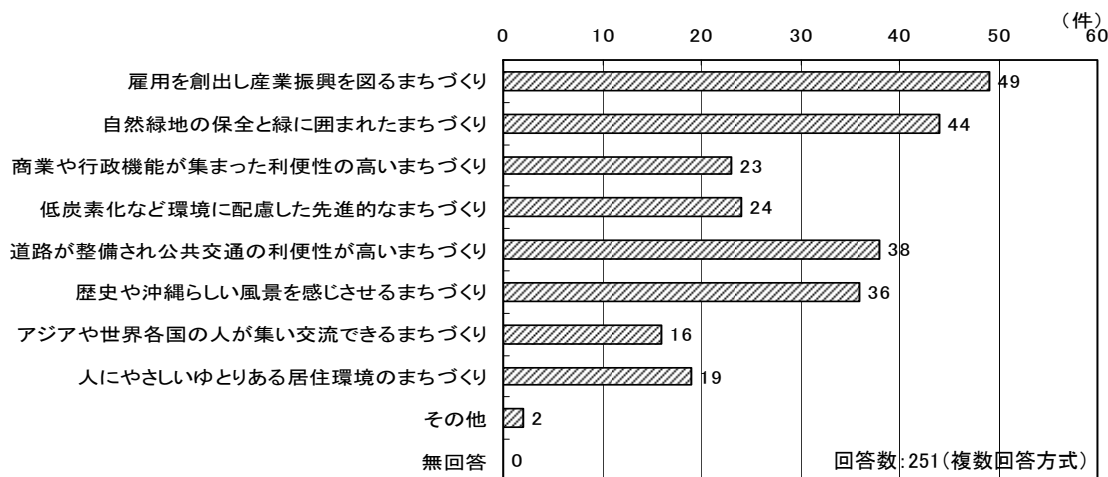
選択肢	件数	比率
1. 自営業	4	4.7%
2. 会社員	31	36.0%
3. 学生	3	3.5%
4. 主婦	3	3.5%
5. 無職	9	10.5%
6. その他	35	40.7%
無回答	1	1.2%
計	86	100.0%



3. 意向の把握

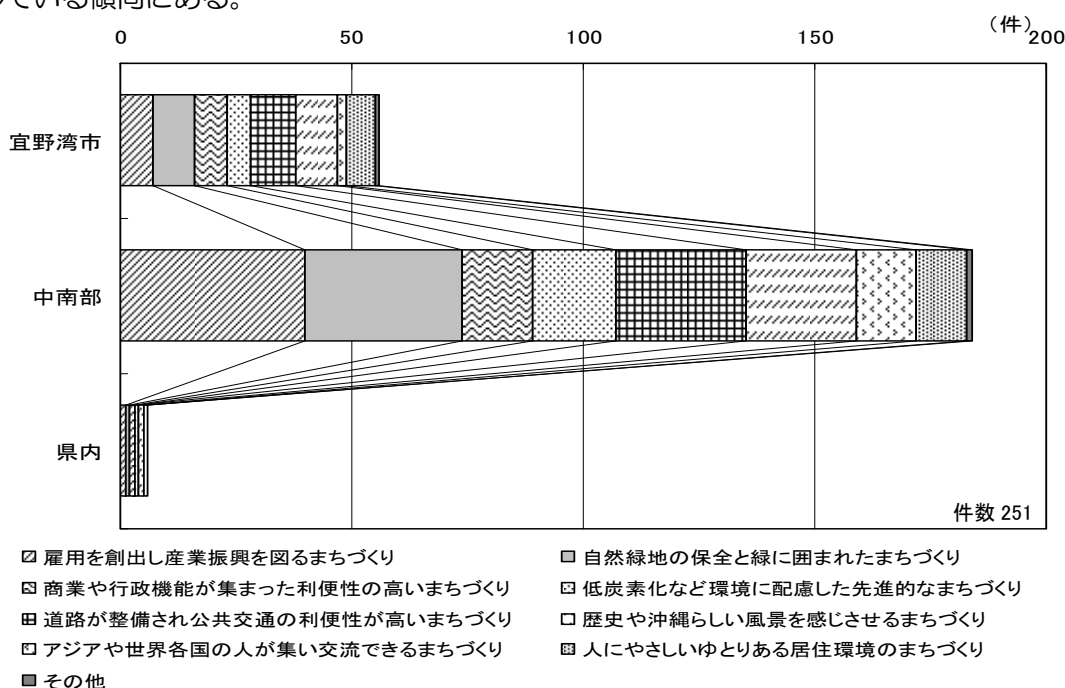
① 普天間飛行場の跡地利用で特に重要と考えるまちづくり

- ・ 跡地利用のまちづくりで特に重要視している分野は、「雇用を創出する産業振興」が最も多く57%を占めている。
- ・ また、「自然緑地の保全」「道路整備・公共交通の利便性」「歴史や沖縄らしい風景」にも回答が多く寄せられており、多様なまちづくりに期待していることがうかがえる。

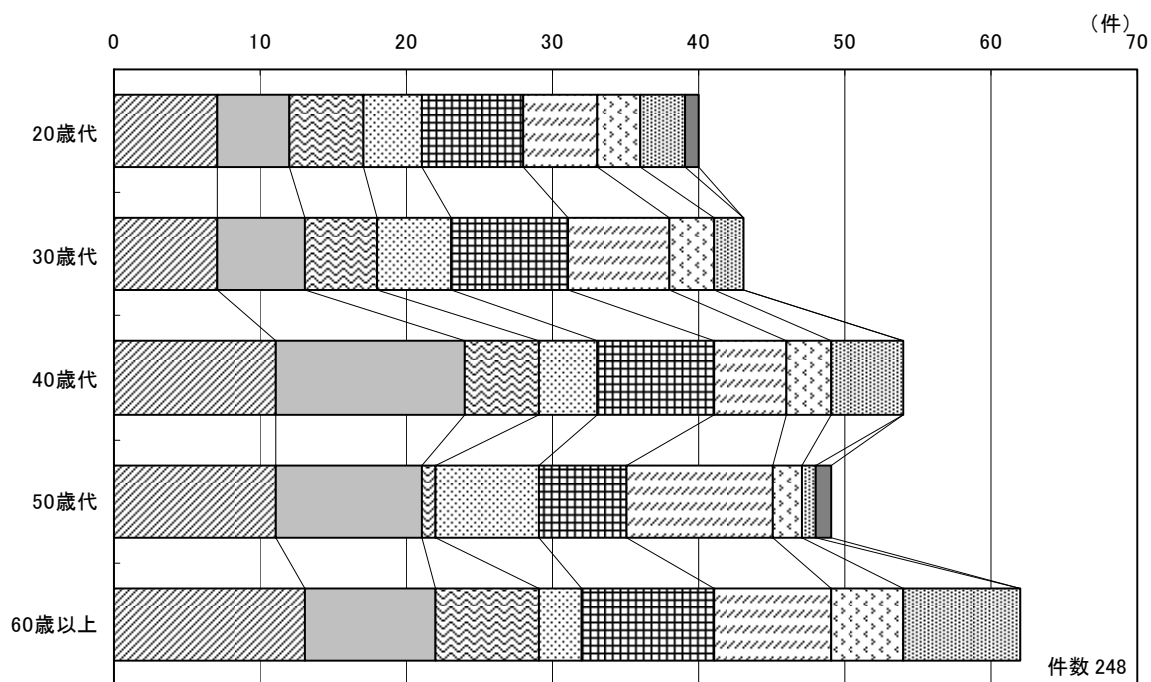


その他の意見	件数
各跡地との機能の連携	1
災害を意識したまちづくり	1

- ・ 居住地別で傾向を比較すると、宜野湾市内の意向は「道路整備・公共交通の利便性」「自然緑地の保全」「歴史や沖縄らしい風景」といった跡地や宜野湾市を範囲として捉えているのに対し、中南部都市圏の意向は宜野湾市内と比較して「雇用を創出する産業振興」「アジアや世界各国の人の交流」が比較的割合として高く、広域的な視点でのまちづくりを期待している傾向にある。



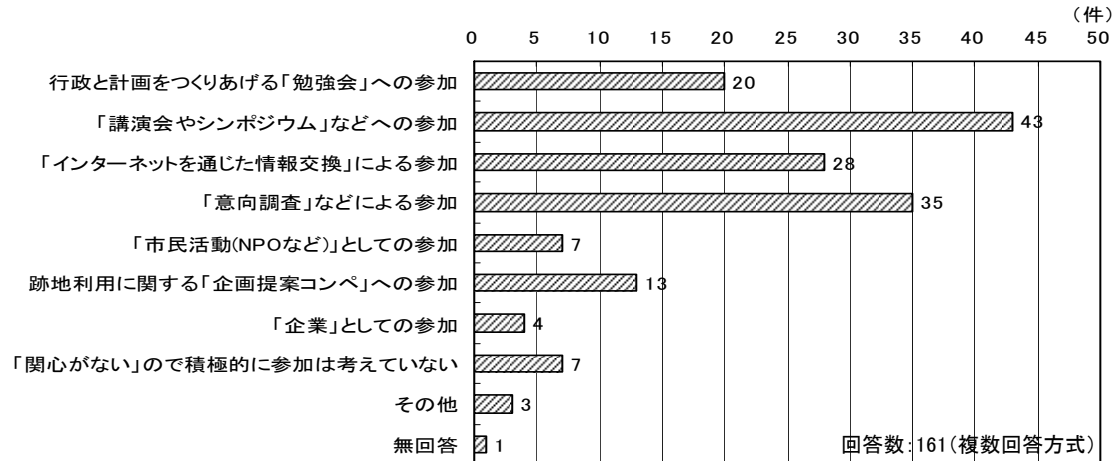
- ・ 年齢別で傾向を比較すると、総回答の中で最も期待の高い「雇用を創出する産業振興」は、50歳代、60歳以上が比較的多く、20歳代、30歳代といった若い世代では比較的小さい傾向となっている。若い世代では、「道路整備・公共交通の利便性」に期待する傾向が比較的高くなっている。
- ・ 40歳代では「自然緑地の保全」、50歳代では「歴史や沖縄らしい風景」が他の年代に比べて特に期待が高い傾向にある。



- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| ☑ 雇用を創出し産業振興を図るまちづくり | ■ 自然緑地の保全と緑に囲まれたまちづくり |
| ☑ 商業や行政機能が集まった利便性の高いまちづくり | ☑ 低炭素化など環境に配慮した先進的なまちづくり |
| ☑ 道路が整備され公共交通の利便性が高いまちづくり | ☑ 歴史や沖縄らしい風景を感じさせるまちづくり |
| ☑ アジアや世界各国の人が集い交流できるまちづくり | ☑ 人にやさしいゆとりある居住環境のまちづくり |
| ■ その他 | |

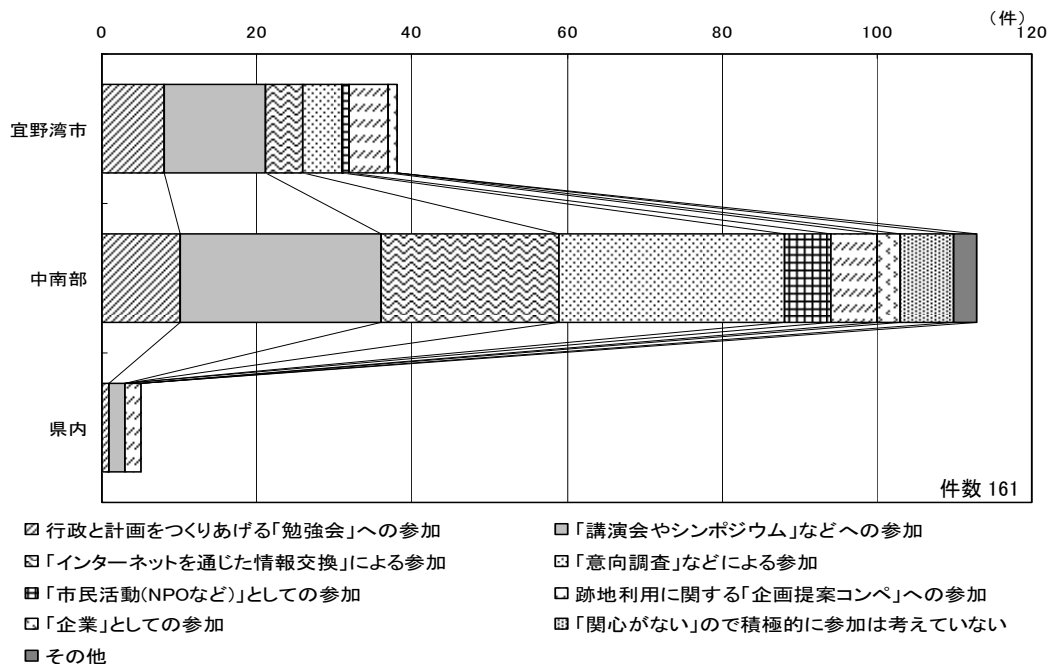
② 県民・市民・地権者等の今後の跡地利用計画づくりへの参加方法

- ・ 今後の跡地利用計画づくりへの参加方法は、「講演会やシンポジウム」が最も多く 50% を占めており、次いで「意向調査」「インターネットを通じた情報交換」の順となっており、容易に参加できる方法を望む傾向が強いことがうかがえる。
- ・ また、「勉強会」や「企画提案コンペ」などの直接的であり積極的な参加方法を希望する意向も見られる。

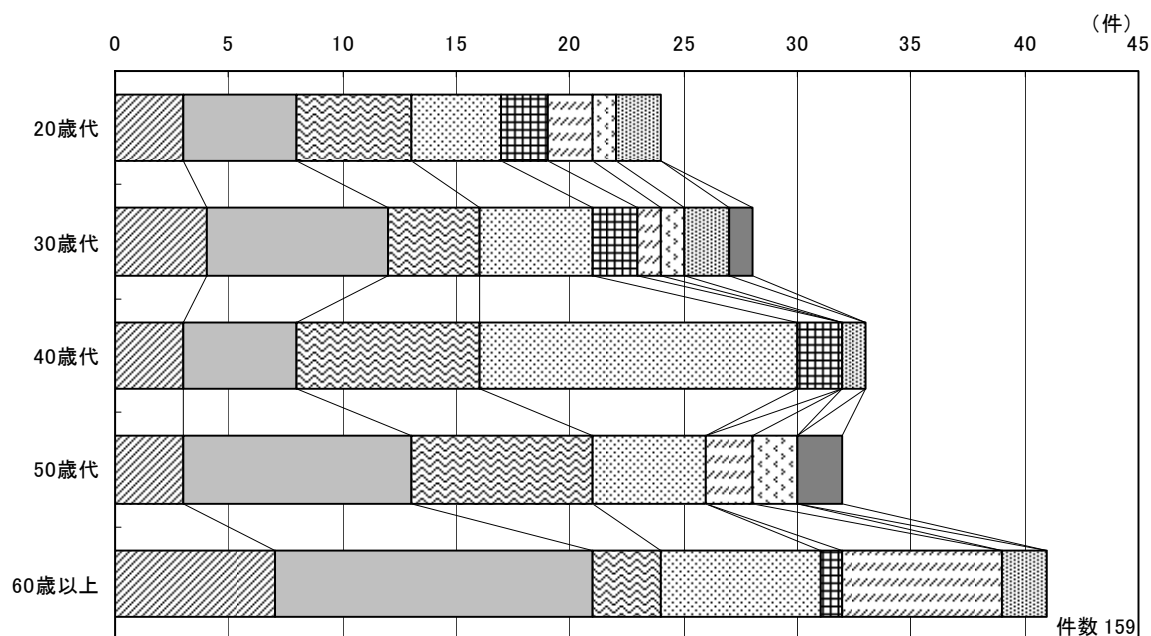


その他の意見	件数
ウェブ投票をやつたらいと思う。県民へアカウント配布。これだけに限らずいろいろ使えるはず！	1
見守る	1
地元、県民の各々の意見が有るので、まずは地元の方々の意見を優先して下さい。	1

- ・ 居住地別で傾向を比較すると、宜野湾市内の意向は「講演会やシンポジウム」「勉強会」が比較的多く、また「関心がない」と回答した方はいなかった。
- ・ 中南部都市圏の意向は宜野湾市内と比較して「意向調査」「インターネットを通じた情報交換」が比較的高く、容易に参加できる方法を望む傾向が強い。



- ・ 年齢別で傾向を比較すると、総回答の中で最も希望の高い「講演会やシンポジウム」は、50歳代、60歳以上が比較的多く、次いで希望の高い「意向調査」は40歳代に多い。
- ・ 20歳代、30歳代といった若い世代は、比較的どの方法も満遍なく選択されている。
- ・ 60歳以上で「企画提案コンペ」「勉強会」を希望する意向が比較的多く、高齢世代の積極的なまちづくりへの参加意識が高いことがうかがえる。



- ☐ 行政と計画をつくりあげる「勉強会」への参加
- ☐ 「インターネットを通じた情報交換」による参加
- ☐ 「市民活動(NPOなど)」としての参加
- ☐ 「企業」としての参加
- その他
- 「講演会やシンポジウム」などへの参加
- ☐ 「意向調査」などによる参加
- ☐ 跡地利用に関する「企画提案コンペ」への参加
- ☐ 「関心がない」ので積極的に参加は考えていない

③ 普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ（委員会案）」のパ
ンフレットをご覧いただいた上での自由意見

分類項目	主な意見の内容
コンセプト	・ 良いと思います。沖縄におけるコンパクトシティのモデルになると思います。期待しています。 ・ 歴史や沖縄らしい風景(緑と松並木、赤かわら)を観光資源として活かし、本土からも訪れるような策定を望む。 ・ 壮大な事業で、大きな夢と希望を持った。 ・ 次世代に残せる立派な跡地になるよう祈る。 ・ 以前は色々な振興策や自然保護等、総花的な提案に感じられたが、今回の中間取りまとめでは、緑地空間を最大限に活用した提案で、その波及効果として、産業や都市の発展を図る方向へ移っている様に感じられた。 ・ 幼児からお年寄りまでのすべての人に、やさしい街づくりを希望 ・ 戦前のおもかげ(古き良き時代の風景)の復活 ・ 便利で、治安の良い場所 ・ 沖縄の基地“あとちりよう”に、内地の人達がたくさん入って、全ての利益を“さくしゅ”するシステムでは意味がない。脱基地と共に、脱植民地化(日本からの)が必要だ。 ・ 広域計画もしっかり反映させた当該計画の策定に取り組んでももらいたい。
導入機能	・ 国益、県益を兼ねた産業振興により宜野湾コンベンションも、もっと知られたり経済効果を生む。 ・ 地元企業が参入しやすい公共事業の実施 ・ 具体的な産業・企業誘致、集客施設を決定し、投資につなげる。 ・ デパートよりも沖縄の自然や歴史(文化、工芸)を育むような街になってほしい。その一方で、小さいお店がいくつもあるような街が面白い。そこに住む人が起業できる場所であってほしい。 ・ 発電所の計画を入れて頂きたい。(標高40m以上) 沖縄県内の発電所のほとんどが、海拔10m以下であり、津波に弱い。
まちづくりの方法	・ 普天間跡地利用を含む宜野湾の全体的な構想を考える。 ・ 基地内の文化財の活用。 ・ 公園をチョイスした理由がよくわからない ・ 文化保全を行う計画、緑化の計画、共に素ばらしい。 ・ 跡地利用は、「平和」発信をメインに、コンベンションセンターとも連動した、東アジアに開かれたまちづくりを!! ・ 沖縄らしい歴史風景もよいが、新たな時代、価値観(旧来型の開発はダメ!)、創造につながる雰囲気を感じるようなまちにしてほしい。 ・ 特有資源としての、地下空洞を、未来的趣向での保全・活用。 ・ 周辺市街地が緑地が少ない分、自然緑地を残したまちづくりをする。 ・ 核になる施設(公園か学校等の公共施設)を1つにしぼって、あとは商業地域、住居地域に区分し、幹線道路を整備したシンプルな街づくり ・ 緑が不足していると思うので、グリーンの空間を多くして欲しい。(ニューヨークのセントラルパークが好印象) ・ 「並松街道」の復活 ・ おもろまちの様な場所ばかりふえても、同じ場所ばかりでは観光の魅力も無くなる。 ・ 前回のコンペの内容がどう盛り込まれているのか。アイデアや夢の案がでたはず。 ・ 都市計画はもっと革新的なアイデアが必要 ・ 中間報告案は、那覇新都心の計画と同レベルで「当たりさわりのない」夢のない案へまとめようとしている。 ・ 周辺市街地及び沖縄市、中城村も含めた広域のゾーニングで位置づけること ・ 個人的に「並松街道」はぜひ再生してほしいです。

分類項目	主な意見の内容
まちづくりの方法	・ パネリストの稲田先生の考え方に感動した。その都市に本来あるもの、特長、価値をいかした跡地利用(街づくり)、緑の多い街づくり希望。 ・ 今まで速度を優先してきた→その街の個性をいかした、いわゆるオンリーワン(価値、特徴)をいかしたものとして欲しい。 ・ これまでの意向調査でも提案した、琉球大学と沖縄国際大学を連結する学園回廊が、どの様に位置付けされているか見えない。現在、長田交差点(沖国大入口)～琉大北口、中部商高～琉大北口の2路線は、朝夕、毎日渋滞している。この渋滞解消と両大学を有機的に連絡する、街路樹に囲まれた緑の回廊ができればよいと考える。普天間跡地にアカデミック施設が立地すれば、研究学園都市の風格ができると思う。 ・ 緑と水の豊さを意識した取組を重点に置いてほしい。 これまでの跡地利用にありがちな、まず道路をつくって、産業振興から入るというやり方は、結局のところ、他地域との差別化ができないので、やめてほしい。オンリーワンだから人が集まるという発想で取り組んでほしい。特に沖縄は、人が歩いて楽しむという発想に乏しいので、回遊歩道も充実してほしい。
土地利用	・ 跡地利用について、熱い議論がなされており、その内容や進行方法について、すばらしかった。
交通	・ 宜野湾横断道路はもう1本必要 ・ 道路の渋滞緩和のための幹線道路の整備 ・ 宜野湾横断道路だけでなく、2～3本の横断道路が必要 ・ 道路網の整備により、既市街地も再開発の機会創出 ・ 公共交通について、電車、モノレール、LRTのいずれでも、対応できるよう策定してほしい。 ・ 北部、南部の結節点として、パークアンドライドに向けた公共駐車場も入れてほしい。 ・ 県内での交通渋滞が激しくなっているため、解決の為に公共交通の役割が重要 ・ パンフレットに示されている道路の流れや公共交通軸をもっと広域で考える。 ・ 交通網の整備は大切
県民参加	・ 一つ一つの積み重ねが基地返還の原動力にもなる。県民、多くの者の認識と行動が大切。 ・ 皆で協力して、すばらしい宜野湾市にできたらと思う。
行政課題	・ 普天間と関係ないと思っている県民も多い。普天間を考えることで、実は、自分のふるさと、地域を考える契機になる。県内外や、国外への情報発信、周知をお願いしたい。 ・ 返還が実現した場合、この調査での県民の意見をしっかりと反映してほしい。この取組みはすばらしいと思う。 ・ 「全体計画の取りまとめ」大変ご苦労様である。今後の進行を、具体的に、市民に解りやすく広報して下さる様希望する。 ・ 中間取りまとめの役割に、「県民・地権者などとの合意形成の促進」とあるが、今回の意向調査だけで合意形成の促進になるとは思えない。もっと、TVCMや新聞、ラジオ、ネットなど、さまざまなツールを使って発信して、県民にPRする必要がある。 ・ 宜野湾市民の声を最大限聞き入れてほしいです。
財源	・ 提言だけでなく、そこにかかる費用はどのぐらいなのか？市・県民の税金負担はどのぐらいなのか示さないと、善し悪しの意見は出ないと思う。
環境	・ 滑走路跡地の環境(汚染)の心配 ・ 基地内に残る緑地、地形は可能な限り保全してほしい。 ・ 箱庭的な公園ではなく、緑の価値、生物多様性を考慮したものにして欲しい。祈ります。
その他	・ 土地の広大さにビックリ ・ 活字が前半多すぎて見る気がしなかった。 ・ 文字が多くてよみづらいので、イラストもうまくつけてほしい。